



### 第21話 議員の呼び方

5年前に議員になった頃、急にまわりから「大塚先生」と呼ばれることが増えてしま...

「愛さん(ちゃん)」と普通に呼んでもらえると、ほっとできて、自然体で頑張れる気がします。



議員になった当初2歳だった娘も7歳になり、「お母さん議員」も少しは板についてきました。



おおつかあいプロフィール 1974年1月10日生まれ。旭操小学校、操南中学校、岡山朝日高校、岡山大学教育学部卒業。99年より福島県で農業研修。4年間の大工修業の後、自宅を建て、大工として働く。2011年3月福島原発事故により一家で岡山に避難。5月「子ども未来・愛ネットワーク」を立ち上げ、避難移住者のサポートや福島の子どもの保養受け入れなどを行う。北区建部町に夫、3人の子どもと暮らす。2016年から県議会議員。

### 大塚愛 いっぽ通信

岡山県議会議員 大塚愛 県政レポート[第21号] 発行: 2022年1月(2021年11月議会報告) 最新情報を発信しています Facebook: みどり岡山 www.facebook.com/greenokayama 大塚愛 www.facebook.com/ohtsuka.ai.3 みどり岡山ホームページ: http://midori-okayama.org

# 大塚愛

県政レポート(2022年1月発行) [第21号]



# いっぽ通信

## P.02-03 子どもや若者をサポート

- P.01 エネルギーの無駄をなくし、健康度をあげる建築とは
P.02-03 おもな活動記録から「きょうだい」の声を聴く・「みんなの第九」
P.04 愛ちゃんがゆく! — 県議体験記 — / 日々のうごき (2021年10月~12月)



## 新 春のお慶びを申し上げます。

年始からオミクロン株による感染が増え、マスク姿の生活もはや2年になりますが、あともうひと踏ん張りで乗り超えたいと願うところです。

昨年、私は建築の「断熱」について勉強することが度々

ありました。気候変動を防ぐカーボンニュートラルに舵を切るためには、住宅やビル、公共施設などで使うエネルギーも大幅に減らしていく必要があります。しかし、日本の家は欧州などに比べて断熱性能が低く、たとえば窓ガラス1枚の断熱性能は障子紙1枚と

同じだそうです。昔はコタツで温まるが多かったですが、今は部屋全体を温める暖房に替わってきているので、家の中をいくら温めても熱がどんどん逃げてしまう構造だと、常にエネルギーを無駄使いしてしまいま

す。そんな中、北隣の鳥取県では、欧州並みの断熱基準(HEAT20のG1・

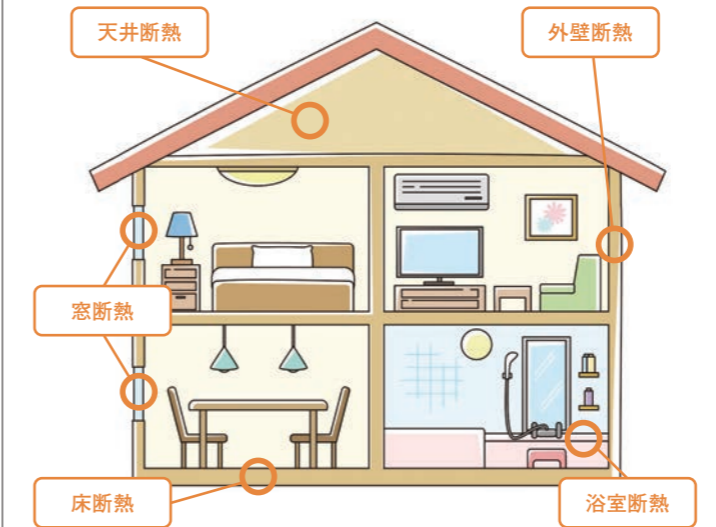
G2)を最低限クリアしていこうと独自の基準をつくって、工務店向けの研修も頑張っておられ、新築住宅の1割以上がすでにこれをクリアしているそうです。

断熱性能を上げるには建築費が高くなりますが、その分、消費エネルギーと光熱費は減りますので、数十年間の



今年(2022年)は年女なので、虎になった気持ちでお正月に描いた絵です。虎のように勇敢にしなやかに、時に気ままに。コロナに負けずに頑張ってください。

トータルコストで考えれば高くなりません。また、室内が快適になる上に、冬場に起こりやすいヒートショック(年間約5000件死亡、交通事故死より多い)を防ぐこともできるので、いろいろなメリットがあると言えます。環境や健康という視点で考えると、住宅や学校など建物の新しい姿が見えてきそうです。



断熱リフォームをすると、冷暖房がよくきく、窓の結露やカビの発生がなくなる、快適さやヒートショック防止などのメリットがあります。特に熱は窓から逃げるので、断熱シートを貼ったり、障子紙を表裏両面に貼るなどDIYの工夫もおススメです。





# 11月議会一般質問から 子どもや若者をサポートするために



「いっぽ通信Plus!」  
動画はこちら

**Q.** 2021年の流行語大賞に「親ガチャ」という言葉がトップ10に選ばれ、「生まれた時の環境や親で自分の人生が決まる」という価値観が若者に広がっていると言われています。7人に1人の子どもが相対的貧困状態にある中で、経済格差が子どもの将来を限定したり、困難さを抱える親御さんの元で育つ子どもが、さらなる困難の連鎖を受けやすいという状況が生まれています。少子化が進む今、次世代の担い手を増やしていけるよう、不安定さを抱えたまま社会に出ていく若者たちを支えていくことが大切ですが、そのような子どもや若者のサポートについてどう考えますか。

**A [知事].** 子どもたちの将来が家庭の経済状況などに左右されることのないよう、市町村やボランティア・NPOなどの様々な主体と連



今回は、「子どもと若者の支援」という一本に絞って、10項目の質問をしました。

携協力しながら、子どもや若者が未来を切り開ける環境づくりに全力で取り組んでいきたい。

**Q.** 今年、県内の中学校を卒業した生徒のうち、進路が決まっていなかった生徒は145名でした。進路が決まっていなかった子どもには、中学校に在籍しているうちに、卒業後も続く支援につながる事が望ましいですが、今後の県内の取り組みは？

**A [県民生活部長].** NPOなどの民間支援団体における支援状況は承知していないが、今後の民間支援団体の活動状況を把握し、教育委員会と情報共有すると共に、そうした団体と連携していきたい。

**Q.** R2年度に高校を中途退学したのは、633名(約1%)でしたが、中途退学をした生徒の支援状況や効果的な支援について。

**A [県民生活部長].** 専任コーディネーターが4年間で高校中途退学者45人からの相談に対応し、そのうち24人が定時制高校や通信制高校への編入や就労に結びつき、残る21人については相談を継続している。出産のために中退した生徒についても実情に応じて支援に努めている。効果的な支援のためには、青少年総合相談センターの窓口の周知

### ◎青少年総合相談センター (ハートフルおかやま110)

高校中退や進路、友だちや家族、育児などの相談を受けています。無料、匿名でもOK。臨床心理士やケアコーディネーター、学生ボランティアが対応。Tel:086-224-7110



### ◎中退者向け 進路情報リーフレット

「あなたの一歩を応援します」定時制への編入、高卒資格、技能習得、就職など



や関連機関との連携が重要だと考える。

**Q.** 子どもや若者の支援には教育、福祉、雇用などの連携が欠かせませんが、まず初めに学校のSSW(スクールソーシャルワーカー)から関係機関に繋がれる場面が多々あります。しかし学校や関連機関からは「せっかく連携をしても、すぐに担当のSSWが変わってしまってやりづらい」という声がいまだに聞かれます。昨年の6月議会でも質問した際に、担当期間を改善していくと言われましたが、現状はいかがですか。

**A [教育長].** 2年以上配置されている学校の割合は、48.1%で前年度より4.8ポイント増加している。今後も継続した配置に向けて努力したい。

**Q.** 問題行動が多い状況を改善させてこれた何人かの校長先生からお話を伺うと、その先生方は決まってお話の共通の考えをお持ちでした。それは「困った生徒は、困っている生徒」という見方です。問題行動を起こす子どもは、先生にとって困った生徒かもしれませんが、本当は子ども本人が困っている状態の表れだと捉え、彼ら彼女らを理解して、寄り添う体制を整えたり、場合によっては早期に支援に繋ぐことが大事です。そういう眼差しを持つ先生が一人でも増えることが、岡山県の教育再生には不可欠であり、そうした「学校の福祉力」をあげていただきたい。

**A [教育長].** 問題行動を起こした児童生徒には、その背景にある家庭環境等の本人が抱える課題を理解した上で、本人の気持ちを丁寧に聴き取るなどが重要で、こうした姿勢を身につけるために研修を行っている。一番状況の厳しい子ども達をいかに支えて上にあげていくのかということが、学校の大切な役割だと思っている。

**Q.** 発達障がいのある若者にとって、職場への不適応や離職を防ぐための支援が必要ですが、就労移行支援事業を活用し、準備期間(最長2年)を経

て、就労後にアフターフォローを受けることもできます。私立高校ではこの支援を受ける生徒が増えていると聞きますが、県立高校ではいかがですか。また地域若者サポートステーション(略称:サポステ)では、高校在学中(3年生の1月以降)から利用することができますが、まだあまり教員に知られていない現状があるため、必要とする生徒に情報が届くようにしていただきたい。

**A [教育長].** 高校からの要請に応じて、特別支援学校からの就労支援コーディネーターを派遣し、就労移行支援事業の活用を含め助言している。サポステとの連携についても高校を指導していく。

### ◎おかやまサポステ (地域若者サポートステーション)

コミュニケーションが苦手、働くのが不安でなかなか踏み出せないという方(15~49歳)を対象に、個別相談や訪問支援、職場体験などのサポートをしています。利用は無料。



**Q.** 「おかやま子ども・若者サポートネット」では、県内で子どもや若者の育成・支援に関わる専門機関や民間支援団体が連携し、総合的な支援体制を構築していますが、フリースクールや学びなお



知事は福祉的な問題に関心が薄いようなので、もっと現場の話を聞いてほしいと要望しました。

し、若者の居場所などの活動を行う団体にも登録していただき、連携を充実させ、かつ多岐に渡る関連機関の見える化を進めていただきたいが。

**A [県民生活部長].** 現在54の関連機関や団体で構成されているが、NPO等様々な民間団体による支援も広がってきているため、参加の働きかけを行い、支援のネットワークを充実させたい。



不登校支援、自立支援、発達の相談などを行っている県内112カ所が紹介されています。



リアルボイスTODOKERU発表会 & SHIRITAI勉強会in岡山 @岡山市勤労者福祉センター (10月16日・17日)

**障**がいのある兄弟姉妹のいる方のことを「きょうだい」と呼びますが、10月には「岡山きょうだい会」の方々を中心に、「きょうだい」の声を伝えるイベントが開催されました。発表会では、障がいのある子を育てるのに一生懸命だった親御

さんや、つい我慢してしまったり、しっかりすることを求められてしまう「きょうだい」の心の声がリアルに演じられました。座談会では、子どもの頃の差別に傷ついたり、親なき後の将来を悩む気持ちが語られ、「きょうだい」の方が抱える様々な気持ちが伝わる貴重な機会で、ケアラーを支える社会の必要も感じました。ボランティアとして一緒に参加した学生さんにもきょうだい当事者が2名おられて、安心して気持ちを語りあえる場があることを喜んでいました。

## おもな「活動記録」から



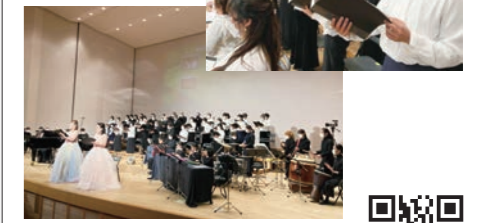
https://riaruboisu.webnode.jp/  
連絡先 realvoice.e.c@gmail.com

吉備高原音楽祭「みんなの第九」 @ロマン高原かよう総合会館(12月5日)

吉備中央町でオーケストラと合唱団が結成され、ベートーヴェンの「第九」の音楽会が開催されることになり、アルトの一員として参加しました。幼い頃に祖母や伯父が年末恒例の第九に参加する姿

を見ていたものですが、いざ自分がやるとなると、第九のメロディーは美しいだけに難しさもありました。迎えた本番は子ども達も加わり、ピアノや和太鼓も入った手作り感いっぱいオーケストラに、総勢60名以上の合唱が重なり、心をあわせた音楽が奏でられました。コロナ禍で様々な活動が制限されてきましたが、暮らしに文化のあることの豊かさを実感するひと時でした。この「みんなの第九」は今後10年間続けられる構想です。興味のある方はどうぞご参加

ください。詳しくはこちらから



音楽祭のダイジェストはこちらからご覧いただけます。

